NPO 法人 おおさかこども多文化センター　Newsletter

OKoTaC通信

オコタック

2012 年 12 月 10 日発行

NO.8

写真：『キリン福祉財団助成金事業　日本語を母語としない親子の社会見学』にて

（左：大阪市立住まいのミュージアム　　右：インスタントラーメン発明記念館）

目　次

NPO活動報告

『日本語を母語としない親子の社会見学』 ・・・・・・・・・・・・・ P2

『桂七福の「人権高座』と笑いながら学ぼう「人権ええやんか！」』 ・・・・・・・・・・・・・ P3

多文化な子ども＠大阪のニュース（1） 『八尾野遊祭』 ・・・・・・・・・・・・・ P3

多文化な子ども＠大阪のニュース（2）

『中国の集い』 『門真民族フェスティバル』 ・・・・・・・・・・・・・ P4

国勢調査にみる在日外国人の教育と社会環境（2）

『高校進学という壁』 ・・・・・・・・・・・・ P5

地域の子ども支援教室から⑧ 『日本語教室・こくさい教室』（泉南市） ・・・・ P6

Air Mail　メキシコ便り⑧ 『クリスマスと新年』 ・・・・・・・・・・・・・ P7

イベント情報 ・・・・・・・・・・・・・ P8

おおさかこども多文化センター 活動紹介(1)

キリン福祉財団助成金事業『日本語を母語としない親子の社会見学』

『第3回 インスタントラーメン発明記念館 』

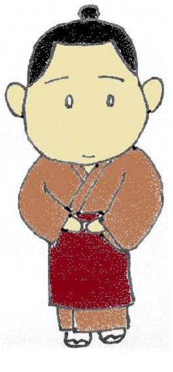
秋晴れの10月21日、8家族(中国、韓国、アメリカ、日本)とスタッフなど総勢34名は、池田市にあるインスタントラーメン発明記念館に行きました。自分でチキンラーメンを作ることができるというので、とても人気の高い場所です。今までにも何度か、実際にラーメン作りができるというプログラムの「チキンラーメンファクトリー」を申し込んだのですが、すぐに定員一杯になり、3度目にして、やっと26名分の申し込みが実現できました。今回の参加家族は韓国語の親子が多かったのが特徴的でした。

見学のコーディネーターをしていた私は、チキンラーメン作りには参加できなかったのですが、小麦粉をこねて、のばして、味つけして、ラーメン作りを親子で楽しんでいる様子をガラス越しに見ることができました。また、ラーメン作りだけでは物足らない親子は、引き続き「マイカップヌードルファクトリー」では、好きなスープと具材をトッピングして、自分でデザインしたカップに入れ、世界でひとつだけの「マイカップヌードル」を作っていました。

ラーメン作りの後は、1階にあるインスタントラーメンに関するさまざまな展示を、参加者同士がクイズを解きながら見学しました。その後みんなそろって集合写真を撮り、見学は無事終了。まだ心残りのある親子は見学をつづけましたが、みなさん、親子で楽しく過ごせた秋の午後になったのではないでしょうか。 (Y. M)

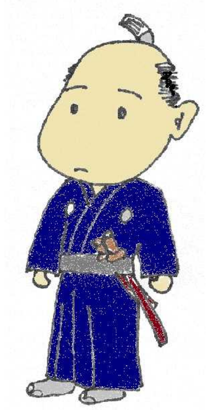
『第4回 大阪市立住まいのミュージアム 大阪くらしの今昔館』

12月9日、天神橋筋6丁目にある、大阪くらしの今昔館へ行きました。参加者は、5家族(中国、韓国、フィリピン、ブラジル、日本)と、通訳や事務局スタッフなど計28名でした。

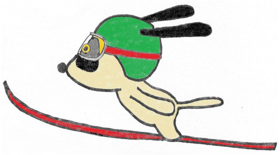


参加者のみなさんは、最初は今昔館のボランティアの方の説明を静かに聞くだけでしたが、昔の街並みの中に入ると、少しずつ質問の声があがるようになってきました。特に参加した子どもたちが次第に積極的になり始めました。おもちゃで遊んだり、江戸時代の戸締まりの方法などを体験した子どもたちの驚きに引きずられるように、周りの大人もボランティアの方の話に引き込まれるようになってきました。

おもちゃには、けん玉やお手玉などがあり、子どもたちだけでなく、大人が一生懸命に取り組む様子も見られました。中には、とても上手な方もいて、みんなに教える姿も見られました。そして、時間がたつにつれて参加した各家族間の交流もだんだん盛んになり、みなさんが笑顔で会話をするようになっていました。江戸時代の道具や街の様子なども、参加者のみなさんにとっては興味深いものだったようで、ボランティアの方に積極的に質問していました。みなさん、好奇心がとてもあり、楽しんでいるのがよく伝わってきました。街並みは決して広くはないのですが、いたるところに工夫がほどこされてあり、犬や猫、ねずみなどが街中にいて子どもたちはそれらを見つけて楽しんでいました。自由時間には着物を着られる方や、お手玉を自分で作る子どもたち、街並みをさらに探検される方など、それぞれの楽しみ方をされていました。



全部で約2時間半の見学でしたが、終わってみれば時間があっという間に過ぎた有意義な親子見学会になったと思います。 (ボランティア・久利忠弘)



おおさかこども多文化センター　活動紹介（2）

『桂七福の「人権高座」と笑いながら学ぼう「人権ええやんか！」』に協力

11月23日から12月2日まで民主主義フェスタ「大阪ええじゃないか～‘変える’に参加する10日間～」が開催されました。このひとつとしてアジア太平洋・人権情報センター（ヒューライツ大阪）主催の表記の企画が30日夜、御堂会館南館で行われました。第一部は桂七福さんの人権高座、第二部は大喜利という構成で、おおさかこども多文化センターも協力という形で参加しました。

第一部の七福さんのお話は、わかりやすく、かつ笑いを誘う内容で、人権という堅い内容にもかかわらず、楽しく学ぶことができました。そういえば配布チラシにはまさに「楽習することをめざす」とありました。

第二部は今見ムスターファさん（桃山学院大学生）、堀江有里さん（日本キリスト教団牧師）、白石理さん（ヒューライツ大阪所長）、谷口真由美さん（大阪国際大学准教授）の４人が登壇、七福さんの軽妙な司会のもと、「なぞかけ」を会場といっしょに楽しみながら、外国人・性的マイノリティなどへの差別の問題をみんなで考えられることができた大喜利になりました。ちなみにムスターファさんは私たちNPOが推薦した方でアフガニスタンからの難民です。参加者の中では一番若かったのですが、他のそうそうたるメンバーにひけをとらない話しぶりでした。

これついての詳しい内容はヒューライツ大阪のHPでご覧になれます。（Y. H）

多文化な子ども＠大阪 のニュース（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

『八尾市・国際交流野遊祭』

10月28日、八尾市南本町にある公園（通称　ロボット公園）で第22回国際交流野遊祭（通称「野遊祭」）が開催されました。

野遊祭は1991年に地元の在日コリアンたちの親睦と、日本人との相互理解を深めるために始められ、その後、ベトナム、中国をはじめ多くの国にルーツのある人々の出会いと交流の場として現在に至っています。

たくさんの模擬店が
エスニック料理などを販売

実はこの野遊祭はここ数年、残念ながら雨にたたられるというジンクスのようなものがあります。当日もあいにくの雨でしたが、参加者たちはそんな雨にもめげずアジアンテイストあふれる数々の模擬店が出される中、会場のあちらこちらで交流を深めました。府立八尾北高校の多文化共生部オアシスも出店しましたが、その中の小龍包を口にした人々は「中の汁が格別」と舌鼓を打っていました。（K. T）

中国の民族楽器を奏でる人々

多文化な子ども＠大阪 のニュース（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

『大阪の三地域で「中国の集い」』

南河内地区交流会（泉北高校）

大阪府立学校在日外国人教育研究会（府立外教）主催で中国にルーツのある高校生が交流する中国の集いが府内三か所で開かれました。11 月 3 日には北河内・中河内地区の交流会が門真なみはや高校で、17 日には南河内地区の交流会が泉北高校で、18 日には大阪市その他の交流会が長吉高校で開催されました。

おいしいお肉に楽しいおしゃべり！（門真なみはや高校）

交流会は、自己紹介やゲーム、話しあい、先輩からの体験談を聞くなど、それぞれの地域ごとに趣向が凝らされていました。昼食はどの会場でも、バーベキューをはじめ、自分たちでいろいろな料理を作って食べました。ふだんは学校に中国人はひとりっきりという高校生も、この日ばかりは思う存分中国語で話し、新しい友人を作ったことでしょう。2月には中国のお正月を祝う「春節の会」が計画されています。ここでもきっと「中国パワー」が炸裂することでしょう。（Y. O）

『門真民族フェスティバル』

12 月1日、門真市ルミエールホールで、「第 13 回民族フェスティバル」が開催されました。このフェスティバルは、『多文化の花咲き誇る町・門真をめざして』をテーマに、外国にルーツを持つ子どもたちを中心とした催しです。門真市内の幼稚園の子どもたち、小中学生、高校生が集まり、それぞれの国・地域の文化や民俗芸能を紹介します。

幼稚園児の「よさこいラーメン」と、「BONVOYAGE」という遊戯は可愛くて、ほんとうに心を安らかにしてくれました。中学生による中国コマのショーは、十数人という人数でコマをあやつり、コマが宙を舞うという迫力満点の演技でした。高校生が踊った龍の舞は力強く、ウイグル族の舞踊はとても華麗でした。その他、朝鮮半島のサムルノリ、中国獅子舞、よさこいソーラン節など多彩な演技に、会場をいっぱいにした観客は拍手を惜しみませんでした。（Y. O）

国勢調査にみる在日外国人の教育と社会環境（2）

「高校進学という壁」

樋口　直人（徳島大学　総合科学部准教授）

外国籍の子どもの進学問題は、「多文化教育」や「不就学」に比べると、きわめて不十分にしか取り上げられてこなかった。しかし、進学は将来の仕事や失業に直結するし、アイヌや同和の問題では進学格差が指摘されてきたことからすると、外国籍になったとたん無視されるのは奇異に映る。統計データの欠如も進学問題の認知を阻んできたため、今回は国勢調査から高校進学の国籍間格差をみることで問題の所在を指摘したい。

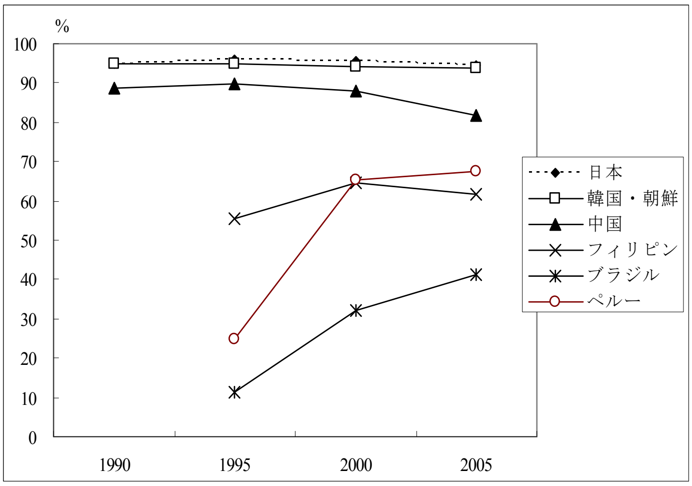


図 1　国籍別 16 歳時の通学率

図 1 では、高校 1～2 年たる 16 歳時点での通学率を示したが、2 つのグループに分岐しているのがわかる。第 1 は日本を含む東アジア国籍であり、高校進学については日本と韓国・朝鮮籍の間に統計的に意味があるといえるほどの差はない。在日コリアンは自力で格差を解消したわけであり、その経験から学ぶことは多いのではないか。他方で、中国籍はそれと 5～10 ポイント程度の格差がある。しかも、2005 年になって通学率が 5 ポイント程度下降しており、格差が拡大している。後述の第 2 グループより通学率が高いとはいえ、中国籍が格差解消に向かうのか拡大に向かうのか、予断を許さない。

東アジアグループと比較すると、東南アジア、南米グループの通学率は大分低く、10～70%の分布である。フィリピン国籍の多くは、日本人と結婚したフィリピン人女性が呼び寄せた子どもと思われるが、通学率は 6 割前後で推移しており、かなりの格差がある。これまで、南米国籍とインドシナ難民の進学率ばかりが取り上げられてきたが、日本国籍を持つダブルの子どもを含めたフィリピン系の進学問題にも眼を向ける必要があることを示す。

南米国籍についてみると、1995 年には 10～25%の通学率だったのが、その後かなり増加した。しかし、明るい材料といえるのはそのくらいで、上がったとはいえ 1995 年が低すぎただけともいえる。もっとも高い 2005 年時点での通学率でさえ、ブラジル 40%、ペルー60%であり、日本国籍との比較でみれば「50 年前の教育水準」しか享受していない。さらに、「全日制普通科」と「職業科・総合学科・定時制・通信制」でみれば、外国籍生徒は後者の比率が圧倒的に高いと思われる。その結果、大学進学まで視野に入れれば格差はさらに広がり、南米国籍の大学進学率はゼロに近くなる。

こうした差は、「日本語の問題」だけによるのではない。図 2 は 5 年前に住んでいた場所と通学率の関係をみたものである。中国・ペルー国籍では、海外＜国内他市町村＜現住所の順で通学率が上がっており、1 箇所に安定して居住・生活すれば進学格差が縮まることを示す。しかし、ブラジル・フィリピン国籍にはそうした効果が限定的で、11 歳から同じ場所に住んでいても通学率は 5 割に満たない。つまり、「日本語指導」に偏った現在の外国人教育では格差是正には不十分で、特別枠の拡充や奨学金などの追加的な措置が必要である。（つづく）

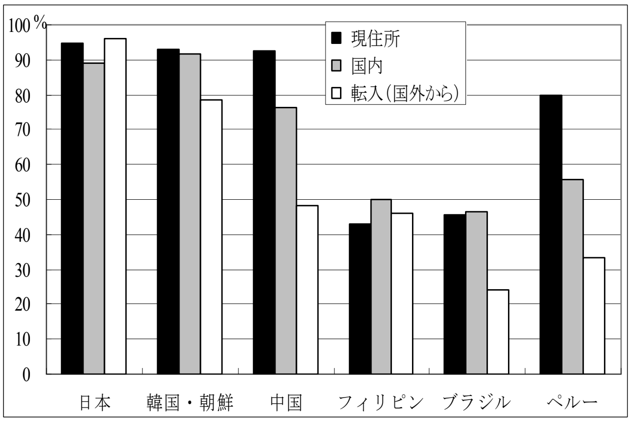
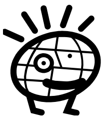


図 2　5年前居住地と高校在籍率の関係（16 歳、2000 年時点）

多文化な子ども あつまれ！ ～地域の子ども支援教室から～ ⑧



『日本語教室・こくさい教室』（泉南市）

泉南市立鳴滝小学校には、外国にルーツのある子どもは14名在籍し、オーストラリア、ベトナム、コロンビア、ペルー、ブラジルにルーツをもつ。その多くは、日本で生まれて日本で育っており、生活の中で使う日本語、会話はできているようだが、家庭での母語中心の生活や保護者の日本語力の影響もあって、学習中に使われる言語については厳しいものがある。今後も日本で生活していくであろう、この子どもたちには、日本で生きぬくための日本語力が必要である。また、「自分はまわりの人からどのように見られているのだろうか」、日本で生まれ育ちながら「わたしって何人（じん）って言ったらいいんやろう」と悩んでいる姿がある。特に、母語がわかりづらく、母国を知らない子どもたちは、高学年になるにつれ、自分のアイデンティティーについて悩んでいる。

言葉の学習

この二つの大きな課題に対応するため、昨年度から毎週火曜日に、青少年センターと連携した日本語教室を鳴滝小学校で実施することになった。そこでは、子どもたちの生活に即した課題をできるだけ考えるようにした。例えば、薬の飲み方があやふやな子どもの姿があれば、そのことを教材にしたり、住所や名前を手紙で書いた経験がなければ、はがきなどを活用して学習したりしている。参加者は1～6年生までおり、それぞれ課題も違う状況だが、6年生がサポートしながら日本語が厳しい子どもの日本語力をつけたり、普段あたりまえに使っている言葉の意味を確認したりしながら学習をしてきた。学習困難の子どもが日本語を学ぶために来るだけにとどまらず、日本以外の国や地域にルーツをもつ子どもが自分自身を見つめる場所としてもこの教室を運営してきた。

日本語での電話のかけ方を練習

また、土曜に年2回程度開催している土曜元気広場の多文化講座や、毎週木曜日のこくさい教室では、学校サポーターである地域・保護者の協力を得ながら、外国にルーツのある子どもがルーツの文化（言語など）を知り、自分自身を見つめることができるよう、様々な国の文化にも親しむ活動を行っている。「外国のことを知ってほしい」という思いを子どもたちは持っているため、外国にルーツのある子ども以外も活動に参加できるようにしている。

こくさい教室ではこれまでに、コロンビアとオーストラリアの文化講座を行った。外国にルーツのあるAさんと一緒に来た子どもは、「友達はたのしそうやった。Aさんは、カルタのときみんなとたのしそうにあそんでるなと思った。はじめてさんかしたときは、こくさい教室ってこんなんやってたんやと思った。ダンスはめっちゃたのしいです。Aさんに『外国のことを知ってほしい』と言われてこくさい教室に来て、ちょっとわかった。」という感想を残した。また、外国にルーツのある子どもがともだちを誘って参加、「コロンビア講座にさんかしたとき、『うわ～めっちゃ楽しそう』と思いました。わたしのともだちもずっとえがおだったし、こくさい教室がおわってから、『楽しかったな～、またしたいな～』といってたから楽しそうでした。よんでよかった」とふりかえった。

こくさい教室にて～スペイン語の
伝言ゲーム"テレフォノ・ロト"

子どもたちの生き方の軸となるアイデンティティーの確立と、仲間づくりを意識しながら、本校の日本語教室・こくさい教室においては、今後も自分たちの文化や言葉を獲得していく機会をつくると共に、生き方のモデルとなる先輩や大人との出会いをつくり、日本社会で生きていくための学力をつけていきたい。

（泉南市立鳴滝小学校教諭　日本語指導担当　伊藤晴基）

連絡先：〔住所〕 〒590-0504 大阪府泉南市信達市場 1602
〔電話・FAX〕 072-483-0033　　〔メール〕 esnarutaki2@gmail.com

Air Mail　～さまざまな国の人々・文化・子どもたち…
海外からのたよりをお届けします～

メキシコ便り⑧　『クリスマスと新年』

（おおさかこども多文化センター会員・金野広美）

12月に入ると同時に街はクリスマス仕様になり、ターミナルや公園、ソカロなどには大きなツリーや、ナシミエントと呼ばれるキリスト誕生時を再現した人形飾りが置かれます。各家庭は屋根やベランダにサンタ人形などを並べ、家のそばの木々は小さな光が美しく点滅します。トナカイの角をつけた車が街を走りまわり、子どもたちの帽子にも小さな角がついています。そしてポサーダも始まります。これはイエス誕生の直前に、マリアとホセが宿を借りるため家々を回ったことにちなんで行われるお祭りで、ご近所各家の持ち回りでパーティーを開きます。そしてそのときにマリアとホセ、宿の住人とのかけあいの歌を2つのグループに分かれて歌います。そしてピニャータといって、中にお菓子や果物を入れた星や動物、最近ではスパイダーマンの形をした大きなはりぼての人形を用意します。それをひもでつるし、揺らしながら目隠しをした人が割るのです。そばにいる人が右だ、左だ、上だ、下だとはやしたて、とても盛り上がる行事です。私の学校でもポサーダがあり、先生と生徒が落ちたピーナッツやみかんにむらがり、私もおすそわけをもらいました。とても楽しかったです。

24日のイブの夜は家族がみんな集まり、夜9時になると教会に行きます。2時間足らずのミサのあと帰宅し、会食が始まります。七面鳥や豚の足のオーブン焼き、タラ料理などを食べます。そしてそのあと、山のようにツリーの下に積み上げられた贈り物を、名前を呼ばれた人が「アブレ、アブレ（開け）」の声のなか受け取り、それを開けます。約30名近くにもなる家族全員の数のプレゼントを用意する人もいるので、あげる数ももらう数も、その数は尋常ではありません。そんな中の１人、ナンデジェが買ってきたプレゼントの包装を手伝ったのですが、包装紙の質のせいもあるのでしょうが、なんと2時間もかかってしまいました。贈る相手の顔を浮かべながらプレゼントを考え用意するのは大変でしょうし、すぐに破られてしまう包装に2時間もかける彼女を見ていて、メキシコ人の家族に対する愛情の深さに感心してしまいました。このようにクリスマスはメキシコ人にとって大イベントなのですが、このクリスマスの飾りつけは１月６日のレージェス・マゴスまで続きます。レージェス・マゴスはイエスの誕生を祝いに東方の三博士が贈り物を持っていったという日で、この日、ロスカ・デ・レジェスという大きな輪になった甘いパンの中に白い小さな人形を入れ、パーティーに集まった人たちで切りわけ食べます。この人形が入っていた人は2月２日の聖母マリアの日にパーティーを開き、みんなを招待することになっています。この人形は幸運を呼ぶといわれ、１年中、大切に持っていなければなりません。ここメキシコではサンタクロースより、東方の三博士が子どもたちにプレゼントを持ってくるというのが伝統的で、この日も子どもたちはプレゼントをもらい、またもやピニャータもします。

こんな中で、新年はとてもあっさりしています。休みもだいたい１月１日だけで、２日、もしくは3日から仕事が始まります。12月31日、やはり家族が集まり、ロモ・デ・セルドという豚肉料理やリンゴのクリームサラダ、いろいろな果物を煮込んだ熱い飲み物ポンチェなどを用意し、夜の10時ごろから食事をします。そして、12時には12個の葡萄を食べ、シードラというリンゴ酒で乾杯します。葡萄ひとつにつき、ひとつの願い事をするので、毎年、12の願い事をメキシコ人はしているわけです。クリスマスプレゼントの数といい、新年の願い事の数といいやはりメキシコはスケールが違います。それにつけてもパーティーの数の多さ、やっぱり年がら年中お祭りをやっている国です。

イベント情報

▼ キリン福祉財団助成金事業　（おおさかこども多文化センター主催）

『日本語を母語としない親子の社会見学』

母語とやさしい日本語を通じて、生活に必要な情報を正確に知り、親子一緒に同じ体験をすることで、会話を楽しむことなどを目的とした企画です。あなたは地震や火事が起こった時、困らないためにはどうすればいいか知っていますか？今回は第1回で実施し、好評だった大阪市立阿倍野防災センター訪問を、第1回目に参加できなかった方を対象に行います。あなたと家族の大切な命と財産を守るために何ができるかを、親子で学びます。通訳もあります。

日　時　：　2013 年 1 月 20 日（日）　13：15～15：00

場　所　：　大阪市立阿倍野防災センター（大阪市阿倍野区阿倍野筋3丁目13番23号）
地下鉄谷町線「阿倍野」（1番・7番出口より西へ 300m）、
御堂筋線「天王寺」・JR「天王寺」・近鉄南大阪線「あべの橋」（それぞれ南へ 600m）

集　合　：　13：00　阿倍野防災センター1階入り口を入ったところ

参加費　：　無料　　　　申し込みできる人　：　日本語を母語としない親子　12 組（先着順）

主　催　：　おおさかこども多文化センター　　担当者　：　橋本（はしもと）、安田（やすだ）、村上（むらかみ）

参加を希望される方は Mail か TEL、FAX で申し込んでください。

Mail　：　osakakodomo@gmail.com　　TEL/FAX　06-6586-9477

▼ 『第 11 回 Wai Wai!　トーク　part2』　（大阪府立学校在日外国人教育研究会主催）

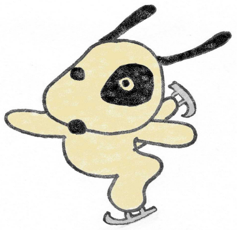
府立高校に在籍する外国にルーツを持つ1年生の母語によるスピーチ大会。

日　時　：　1 月 19 日（土）　13：30～16：30

会　場　：　府立住吉高等学校　（大阪市阿倍野区北畠2丁目4-1）
阪堺上町線「北畠」より西へ 200m

見学希望は事前に府立外教（Mail：furitsugaikyo@nifty.com　）に申し込んでください。

スタッフ紹介（2）　前号に引き続き編集スタッフを紹介します。



金野広美

オコタック通信にメキシコ便りを連載中です。６０歳からは新しいことを始めたくて、５５７歳で某新聞社を退職、メキシコに遊学しました。よく遊び、よく学びを実践し、そこで身につけたいろいろなことを生かして、子どもたちの支援をしていきたいと思っていますが、どんどん忘れていくスペイン語を引き留めるのに悪戦苦闘の毎日です。そこでせめてもの手立てとしてタンゴ、ボレロ、フォルクローレなどラテンの曲をスペイン語で歌っていますが全く焼け石に水です。トホホ。

NPO 法人　おおさかこども多文化センター

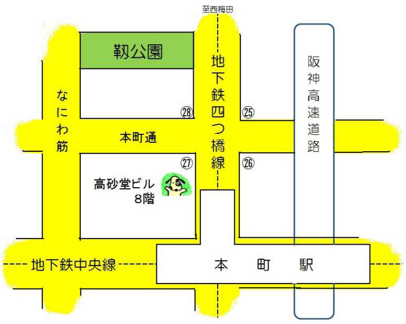
代表　村上 自子

〒550―0005 大阪市西区西本町 1-7-7　高砂堂ビル 8 階

Tel / Fax　06-6586-9477

E-mail　osakakodomo@gmail.com

URL　http://okotac.org　（アドレスが変わりました）

郵便振替　【記号・番号】00940―1―272824
（他金融機関からは【店名】〇九九（ｾﾞﾛｷｭｳｷｭｳ）【店番】099
【預金種目】当座【口座番号】0272824）

口座名義『ＮＰＯ法人　おおさかこども多文化センター』
〔ﾌﾘｶﾞﾅ：トクヒ）オオサカコドモタブンカセンター〕